

平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名 熊本県

事業名称 くまもと安心移動ナビ・プロジェクト

1. 事業実施概要

ユビキタス技術を活用し、やさしく簡単で誰でも使える公共交通や各種施設等（観光地・公共施設・商店街）の案内システムを構築する。

具体的には、FeliCa リーダー／ライターが搭載された「ユビキタス案内パネル」を熊本市内の主要なバス停、観光地・施設等に設置し、FeliCa 機能内蔵型携帯電話をかざすと、目的地までの公共交通機関の乗換案内（乗り場や時刻表）、施設の概要（開園時間や休館日、展示概要や歴史等）等の情報が携帯電話の画面に表示される。

また、民間事業者が提供しているGPSや地図案内サービスと連携し、目的地まで案内するシステムも開発する。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
H21年3月のシステム 利用回数	50件／日	104件／日	○	Web閲覧数による計測

3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

<委託業務説明書>

1 平成20年度事業実施において明らかとなった課題

第3回推進協議会（3月19日開催）において、次年度の取組み方針を審議し、協議会として承認頂くとともに、次年度取り組むにあたっての課題を整理した。

方針1 ユビキタス案内パネルの設置

取組み1-1：設置の考え方に基づく、ユビキタス案内パネルの具体的な設置場所の選定

取組み1-2：設置場所の状況に応じた、ユビキタス案内パネルの制作及び設置

実現に向けた課題）施設管理者、道路管理者等との協議及び承認（来年度、熊本市内の主な観光地、商店街、交通拠点等25箇所を設置）

方針2 システムの更なる充実

取組み2-1：熊本の名産品、特産品等を扱う店舗を検索できる「店舗等案内システム」の構築

実現に向けた課題）官民の役割分担の整理、情報を提供する店舗、タウン誌等との連携

取組み2-2：観光地や商店街の回遊性向上の為に「周遊、街歩きシステム」の構築

実現に向けた課題）地元ボランティア団体が実施している観光ガイド等との連携

方針3 実用化後のシステムの運営

取組み3-1 常に最新の情報を提供するための、情報更新の体制確立

実現に向けた課題）交通事業者と連携したダイヤ改正への対応、既存サイトとの自動連携システムの構築

取組み3-2 実用化後の管理運営体制

実現に向けた課題）管理運営団体の選定（公募等）、ビジネスモデルの構築

2 自律的・継続的運営の見込み

事業終了（平成21年度末）までに「くまもと安心移動ナビ・プロジェクト推進協議会」において管理運営の方法について検討を行う。

システムの運営については、公募等により民間事業者等に、管理運営を委託する事を想定。システムの運営経費の一部は、県の負担金を予定しており、その他は店舗等からの広告収入等も想定している。

3 今後の展開方針

平成21年度は、次年度の取組み方針に基づき、携帯電話をかざすと簡単に、目的地までの情報が取得できる、「ユビキタス案内パネル」を熊本市内の主要な観光地、商店街、公共施設、バス停、電停等の25箇所を設置する。

更に、個々の店舗やタウン誌等が情報を入力したり、利用者が口コミ情報を掲載するシステムを構築し、常に鮮度の高い（陳腐化しない）情報の提供や充実を行うことで、更なる利便性向上や地域経済の活性化を図る。

また、観光地等の周遊コースが設定できるコンテンツを追加することで、観光客の回遊性向上を図る。

＜来年度の主な実施内容＞

①ユビキタス案内パネルの制作及び現地への設置（25箇所分）

②店舗情報等提供システムの構築

店舗やタウン誌等が、店舗情報等（おすすめメニュー、バーゲン、クーポン、イベントの情報提供等）を入力し、利用者も口コミ情報等を入力できるシステムを構築する。利用者は、このシステムを活用し熊本の名産品や特産品等をキーワードに、提供する店舗を簡単に検索できる。

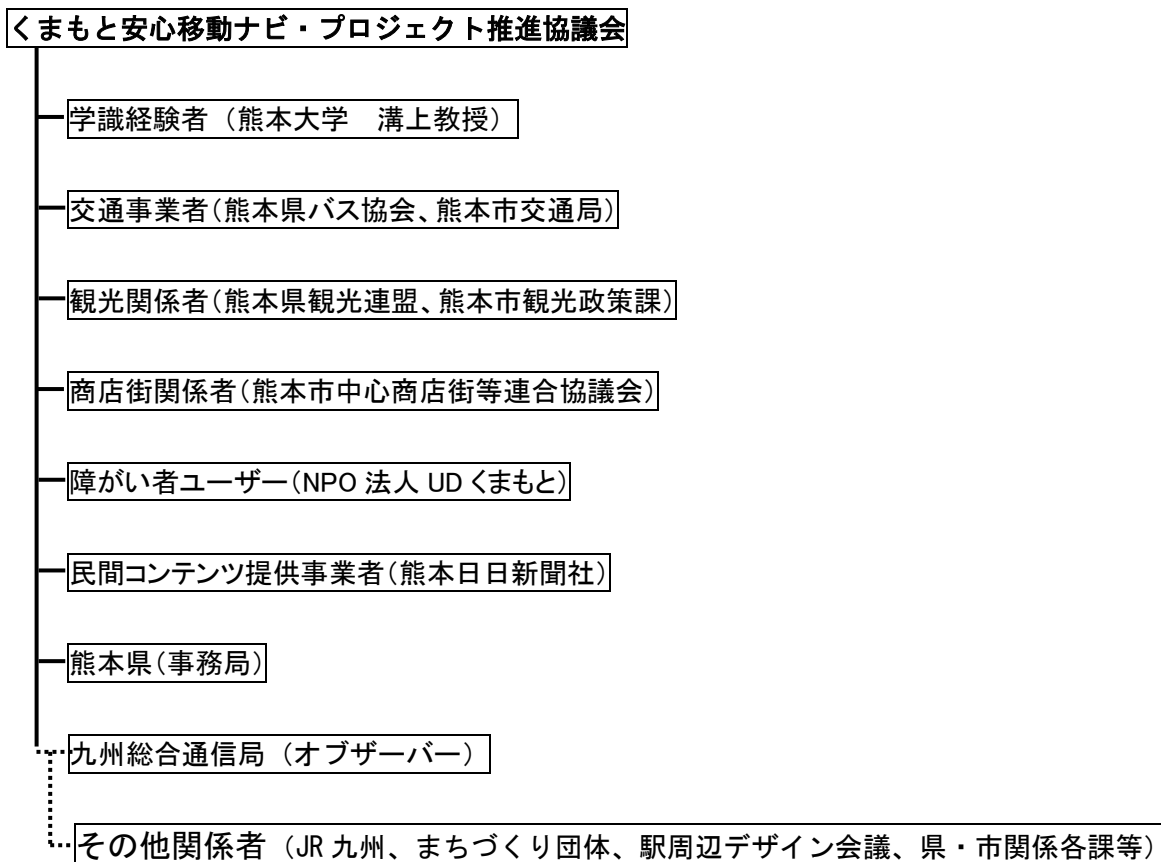
③案内システムのコンテンツ充実（周遊コースの追加）

観光客等の回遊性向上を図るため、市内の観光地、商店街、公共施設等を散策できるコンテンツを提供する。

平成22年度以降は、システムの安定的な運用の為に検証や体制作りを行い、平成23年春の九州新幹線全線開業に併せて実用化を行う。

<実施体制説明書>

1 実施体制



2 各主体の役割

No	名称	役割
1	熊本大学 溝上教授（座長）	「交通政策」「まちづくり」等に関する学識経験者としての、プロジェクト推進全体に関する助言及び取りまとめ
2	交通事業者	公共交通に関する情報（時刻、乗り場、料金等）の提供や内容に関する助言。バス停、電停へのユビキタス案内パネルの設置協力
3	観光関係者	市内観光施設に関する情報（概要、料金、開園日・時間、イベント等）の提供や内容に関する助言。市内観光施設への案内パネルの設置協力
4	商店街関係者	中心商店街に関する情報（概要、イベント、店舗情報等）の提供や内容に関する助言中心商店街への案内パネルの設置協力
5	障がい者 ユーザー	バリアフリー情報の提供内容に関する助言。観光施設、公共施設に関するバリアフリー情報の提供
6	民間コンテンツ 提供者	民間の携帯サイトを運営している視点から、タウン情報・店舗情報等に関する情報提供内容やシステムの運営方法（ビジネスモデル等）に関する助言
7	熊本県（事務局）	本事業の主務課、関係各部局との調整 協議会の庶務。地域課題に関する施策との調整、委託業務の発注

事業実施進行表

実施内容	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H21 1 月	2 月	3 月
協議会の 設立準備			→	→					
協議会等開催						△		△	△
システム構成の 検討・決定			→	→					
システム構築に 係る競争入札					→	→			
システム 設計・開発							→	→	→
ユーザー検証								→	
システム稼働									→
報告書作成									→

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

<http://k-navi.pref.kumamoto.jp/>

平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：熊本県

事業名称：くまもと安心移動ナビ・プロジェクト

1 概要

ユビキタス技術を活用し、やさしく簡単で誰でも使える公共交通や各種施設等（観光地・公共施設・商店街）の案内システムの構築。

具体的には、FeliCa リーダー／ライターが搭載された「ユビキタス案内パネル」を熊本市内の主要なバス停、観光地・施設等に設置し、FeliCa 機能内蔵型携帯電話をかざすと、目的地までの行き方の案内（所要時間、乗り場地図、公共交通機関の時刻表）、施設の概要（開園時間、休館日、料金、バリアフリー設備）等の情報が携帯電話の画面に表示される。

2 運用結果

3月27日に熊本駅前広場、熊本駅前バス停、阿蘇くまもと空港バス停、通町筋バス停、市役所前バス停にユビキタス案内パネルを設置し、テスト運用を開始した。（1日 100アクセス以上を記録。）

3 課題・改修の必要性

地域経済活性化や観光振興というプロジェクトの目標を達成するためには、来訪者を市中心部の観光地や商店街に案内するだけでなく、観光客の回遊性向上や名産品・特産品等の販売向上につながるシステムやコンテンツを拡充する必要がある。

4 その他

特になし